



年頭のご挨拶



加古川はぐるま福祉会後援会
会長 前川 忠範

新年あけましておめでとうございます。
平素は加古川はぐるま福祉会後援会の活動にいろいろとご支援ご協力をいただき衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年11月より第8波となる新型コロナウイルス感染症が増加し、インフルエンザの流行と重なり、心身ともに警戒しなければならぬ時期になってまいりました。ご自愛ください。

また、社会では円安による物価の高騰が進む日々となり生活や経済活動にも大きな支障が出てきていますが、今年は癸卯年(みずのと・う)「飛躍」と「向上」の年と言われています。今年こそ、これまでの我慢と努力が実り安心して生活できる年になりたいものです。

さて、加古川はぐるま福祉会後援会では去る令和4年6月29日開催された役員会におきまして、故大庫俊介前会長の後任として、私、前川忠範の会長就任が決まりました。

◆ ◆

大庫俊介氏は平成26年6月より長きにわたり後援会会長職を務められ、加古川はぐるま福祉会の活動を温かく見守り、物心両面にわたり応援されてきました。中でも令和2年春には加古川はぐるま福祉会は創立40周年という記念すべき年を迎えられ、これまで加古川市より指定管理者として運営してきた加古川市立知的障害者総合支援センターが法人直営の障害者支援施設「生活支援センター」として生まれ変わったこと。また加古川はぐるま福祉会の事業発祥の地であり、今日の礎となった働く施設「加古川はぐるまの家」は総2階建てに新築されたことを、とても喜び、私たち加古川中央ロータリークラブの会員にも報告されていたことを昨日のように感じております。その大庫氏の後任として後援会会長職を引き継ぐことになり責任はすこく重いですが、精一杯努めてまいりたいと思っております。

◆ ◆

加古川はぐるま福祉会後援会の活動は加古川はぐるま福祉会を「財政的に応援すること」と「障害のある人もない人も共に生きる

学させていただきました。作業室は至る所に働くための工夫がされており、利用者さんがきびきびした動きで自分に任された仕事を黙々とこなされている姿を目の当たりにして「働くことの幸せ」がひしひしと伝わってきました。そしてより安全に正確に仕上げ、納品まで手を抜かない姿に「立派な働く大人」の気概を感じました。

生活支援センターでは日中活動として軽作業や創作活動や機能回復訓練などに取り組みされていますが、この会報「はぐるま」121号の表紙は生活介護事業の利用者さんの共同作品と聞きました。コロナ禍のため創作活動を拝見することはできませんでしたが、長い時間をかけて身近にある廃材を利用した今回の表紙、卯年の躍動感あふれる作品のすばらしさに感動しました。

社会の実現」です。私は造園土木業を営み、ロータリアンとして仕事を通して職業奉仕に努めておりますが、正直、障害のある方のごとを直接知る機会は今まではほとんどないに等しい状況でした。

私が大庫氏から頂いた大切な言葉「知り合いを広げることにより奉仕の機会としますのでよ」という言葉です。何事も人に対する思いやりと感謝の気持ちで接することを肝に銘じ後援会会長を務めてまいりたいと思っております。

長い歴史の中で後援会組織が設立当初掲げられた目的「加古川はぐるま福祉会が安定して運営するための財政的支援と共生社会の実現」という初心を忘れずに後援会会員の皆様、加古川はぐるま福祉会、そして利用される方々と協力体制の下、今後も続けていく所存です。

そして更なる後援会会員拡大に努めてまいりますのでご支援ご協力いただけますよう、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新入職員紹介



生活支援部
大澤周史

令和4年9月に入職致しました大澤周史です。前職は8年程老人介護施設で働いておりました。同じ福祉業界ではありますが、今までのサービスとは異なるため、医療度や介護度の違いに戸惑いはありますが、諸先輩方の一つ一つ丁寧に教えて頂きながら、業務や利用者の方々への対応を行っております。また、前職での経験を活かせることや提案出来ることがあれば積極的に発信していければと考えております。少しでも多くはぐるま福祉会に貢献できるように多職種との連携を図りより良いサービスの実現を目指し、職務を全うしたいと思っております。はぐるま福祉会の一員として恥ずかしくない職員になれるよう精一杯努力致しますので、よろしくお願いたします。



生活支援部
松本藍香

9月より生活支援部で勤務させて

頂いている松本藍香です。

私が、福祉の仕事に興味を持ったのは祖父の影響です。定年退職後、デイサービスの送迎員として勤務をされていた祖父が毎日いろんな話を聞かせてくれて、やりがいを持って仕事をしている姿に惹かれ、私も福祉関係の仕事をしたと思ったのがきっかけでした。

老人ホームで2年間勤務し、さまざまなことを経験させて頂きました。その中でもっと福祉でいろんなことを学びたいと思っていた時に、ご縁があり加古川はぐるま福祉会でご縁が頂けることになりました。

まだまだ知識や経験も浅く分からないことだらけですが、一日一日を大切に利用者さんと関係を築いていき、頼ってもらえる支援員になりたいと思っております。

これからも頑張っていきたいと思っております。よろしくお願致します。



生活支援部
中谷麻希

9月より生活支援部で看護師として働かせて頂いております中谷麻希です。去年の4月から看護師1年目とし



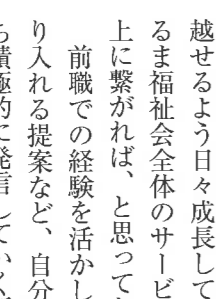
生活支援部
有谷公佑

令和4年9月より、社会福祉法人加古川はぐるま福祉会生活支援センターの生活支援員として入職致しました。私、有谷公佑と申します。前職は老人施設や障害者施設に7

て姫路の病院で勤務しておりましたが、今回ご縁がありまして生活支援部で看護師として勤務させて頂くこととなりました。

病院では療養病棟に勤務しており、主に高齢の終末期に携わらせて頂いております。

病院時代の経験や知識も踏まえ、施設のことや学ばせて頂きながら利用者の方々とのコミュニケーションを通し、まずはその方々の性格や好きなものなどからお話ししながら体調面や気持ちに寄り添えるよう信頼関係を築けて行けたらと思っております。



生活支援部
網本 巧

令和4年9月1日よりお世話になっております網本巧です。

前職は2年程度、特別養護老人ホームでケアワーカーをしていました。福祉業界の経験が少ないため、技術・知識共にまだまだ未熟ですが、精一杯、先輩方に追いつき追い越せるよう日々成長していき、はぐるま福祉会全体のサービスの質の向上に繋がれば、と思っております。

前職での経験を活かし、新しく取り入れる提案など、自分の意見を持ち積極的に発言していく所存です。人として至らない点が特に接遇面において多いとは思いますが、意識し改善していきますので、これからよろしくお願致します。私の成長に乞うご期待！